

患者番号
氏名

生年月日
性別

採取日時

結果コメント

依頼医師

オーダー日

検査種別	末梢血液一般・網赤血球	材料	血液
検査結果用紙の見方			

検査項目	結果	単位	基準値	結果値コメント
末梢血液一般検査			***	
WBC	L 1.73	10 ⁹ /L	3.30 - 8.00 × 10 ⁹ /L	
RBC	L 2.97	10 ¹² /L	4.35 - 5.55 × 10 ¹² /L	
Hb	L 8.9	g/dL	13.7 - 16.8 g/dL	
Ht	L 26.0	%	40.7 - 50.1 %	
MCV	87.5	fL	83.6 - 98.2 fL	
MCH	30.0	pg	27.5 - 33.2 pg	
MCHC	34.2	%(g/dL)	31.7 - 35.3 g/dL	
PLT	!L 17	10 ⁹ /L	158 - 348 × 10 ⁹ /L	
NRBC	H		0.0 /100WBC	
NRBC#			*** 10 ⁹ /L	
RDW-SD			*** fL	
RDW-CV			*** %	
PDW			*** fL	
MPV			*** fL	
P-LCR			*** %	

基準範囲から外れている場合にマークが付きます
H：基準範囲 上限超え
L：基準範囲 下限超え
!H / !L：緊急異常値

各検査項目の基準範囲を示します

検査種別	生化学検査	血液
受付日		
受付番号	00010	

検査項目	結果	単位	基準値	結果値コメント
乳び(生化学)	0			示]をクリック
溶血(生化学)	0			示]をクリック
黄疸(生化学)	0			示]をクリック
AST	H >1600	(仮) U/L		
ALT	H >1600	(仮) U/L		
LD(IFCC)	H 233	U/L		
ALP(IFCC)	H			
γ-GT	!H			
TP				
ALB				
A/G				
T-Bil	H			
D-Bil				
CRE	H			
eGFR	L			
UA	H			
UN				

検査結果が変更となる可能性がある仮報告であることを示しています

基準範囲は、健常人の大多数が含まれる検査値の範囲を示すもので健常人であっても基準範囲外の結果となることがあります。また、それとは逆に病気をもち人であっても基準範囲内の結果となることもあります
検査値は自身で解釈せずに、必ず主治医の判断に従ってください

患者番号
氏名

生年月日
性別

採取日時
結果コメント

依頼医師

オーダー日

検査種別	生化学検査	材料	血液
受付日			
受付番号	00010		
検査項目	検査の概要	単位	基準値
乳び(生化学)			
溶血(生化学)			
黄疸(生化学)			
AST	アスパラギン酸アミノトランスフェラーゼ 肝細胞の破壊の有無を推定する検査で、心筋梗塞でも高値となります。	U/L	13 - 30 U/L
ALT	アラニンアミノトランスフェラーゼ 肝細胞の破壊の有無を推定する検査です。	U/L	男性：10 - 42 U/L 女性：7 - 23 U/L
LD(IFCC)	乳酸デヒドロゲナーゼ、乳酸脱水素酵素 肝臓・心臓・血液・骨格筋など様々な臓器に含まれている酵素で、それらの臓器・組織の損傷を反映する検査です。	U/L	124 - 222 U/L
ALP(IFCC)	アルカリホスファターゼ 胆汁が排せつされる経路の障害だけでなく、悪性腫瘍の骨転移や骨疾患の有無を反映する検査です。	U/L	38 - 113 U/L (IFCC法)
γ-GT	γ-グルタミルトランスフェラーゼ 肝臓・胆道の障害を表す指標で、アルコール性肝障害の診断の目安ともなる検査です。飲酒によって高値となるため、アルコール制限の実施状況を把握することもできます。	U/L	男性：13 - 64 U/L 女性：9 - 32 U/L
TP	総蛋白 血液中に含まれるタンパクの総量で、肝機能や腎機能の障害などで変動するため、様々な病態の判断に用いることができる検査です。	g/dL	6.6 - 8.1 g/dL
ALB	アルブミン 栄養状態・肝機能の指標であるほかに、一部の腎障害の程度を表す指標です。	g/dL	4.1 - 5.1 g/dL
A/G	アルブミン / グロブリン 比 血液中に含まれるタンパクは、アルブミン (A) とグロブリン (G) とから成り、その比を計算したもので、肝機能障害の有無とその進行度を表す指標です。		1.32 - 2.23
ChE	コリンエステラーゼ 肝臓でタンパクを合成する機能を表す指標です。有機リンなどの薬物中毒の疑いがあるときにも必須となる検査です。	U/L	男性：240 - 486 U/L 女性：201 - 421 U/L
T-Bil	総ビリルビン 黄だんの原因確認に用いる検査です。血管内で溶血（赤血球が何らかの原因で破壊されること）が起こると、赤血球から出てくるヘモグロビンが分解されて、本来肝臓が処理をするべき能力以上のビリルビンが産生される高値となります。	mg/dL	0.4 - 1.5 mg/dL
D-Bil	直接ビリルビン 黄だんの原因確認に用いる検査です。赤血球からでてくるヘモグロビンが分解されたビリルビンを処理して胆汁中に排出する肝臓は正常であるのに、がんや胆石などが原因となって胆道の閉塞が起こり胆汁排せつが障害されると高値になります。	mg/dL	0.2 mg/dL 以下

患者番号
氏名

生年月日
性別

採取日時

結果コメント

依頼医師

オーダー日

検査項目	検査の概要	単位	基準値
検査種別	生化学検査		
受付日		材料	血液
受付番号	00010		
CRE	クレアチニン 血液中の老廃物や塩分をろ過する腎臓の糸球体の働きを表す指標です。筋肉量によっても増減します。	mg/dL	男性：0.65 - 1.07 mg/dL 女性：0.46 - 0.79 mg/dL
標準化eGFRcreat	糸球体が1分間に血液をどれくらいろ過して尿を作れるかの指標となるもので、クレアチニンを測定した結果から年齢と性別に応じて計算される数値です。	mL/min/1.73m ²	60 以上 (mL/min/1.73m ²)
UA	尿酸 白血病・痛風・糖尿病など、尿酸が過剰に産生される病態や、尿酸の排出異常である腎機能低下で高値となります。	mg/dL	男性：3.7 - 7.0 mg/dL 女性：2.6 - 5.5 mg/dL
UN	尿素窒素 腎機能のほかに、全身の諸臓器の状態を知る検査で、腎不全（尿毒症）などで高値になります。	mg/dL	8 - 20 mg/dL
TC (T-CHO)	総コレステロール 動脈硬化の危険度を知るための検査で、高脂血症・動脈硬化などで高値になります。	mg/dL	142 - 248 mg/dL
HDL-C	HDL-コレステロール 動脈硬化性疾患の危険因子を調べる検査で、高脂血症・動脈硬化などで低値になります。	mg/dL	男性：40 - 90 mg/dL 女性：48 - 103 mg/dL
LDL-C	LDL-コレステロール 動脈硬化性疾患の危険因子を調べる検査で、高脂血症・動脈硬化などで高値になります。	mg/dL	65 - 139 mg/dL
TG	中性脂肪、トリグリセリド 動脈硬化性疾患の危険因子を調べる検査で、甲状腺などの内分泌疾患でも増減します。	mg/dL	男性：40 - 149 mg/dL 女性：30 - 149 mg/dL
CK	クレアチンキナーゼ 筋肉（心筋・骨格筋・平滑筋）や脳の障害の指標です。	U/L	男性：59 - 248 U/L 女性：41 - 153 U/L
CK-MB	クレアチンキナーゼ-MB CKのうち、心筋に存在するCK-MBを検査することで、心筋梗塞や心筋炎を反映します。	U/L	6 U/L 以下
総胆汁酸	肝細胞によって生成されて胆汁として十二指腸に排せつされるもので、肝障害や胆汁排せつ障害を反映する指標です。	μ mol/L	10 μ mol/L 以下
血清血糖	食事で摂取された糖質が分解されてできたブドウ糖（グルコース）を検査するものであり、血糖値を調節する機能に異常があると、高血糖や低血糖となります。	mg/dL	73 - 109 mg/dL
AMY	アミラーゼ すい臓・唾液腺の機能や、その障害を推測する指標です。	U/L	44 - 132 U/L
リパーゼ	脂肪を分解する酵素で、急性・慢性膵炎などの膵疾患で高値になります。	U/L	13 - 55 U/L

患者番号
氏名

生年月日
性別

採取日時

結果コメント

依頼医師

オーダー日

検査種別	生化学検査	材料	血液
受付日			
受付番号	00010		
検査項目	検査の概要	単位	基準値
Na	ナトリウム	mmol/L	138 - 145 mmol/L
	糖尿病や尿崩症などの水分欠乏や、甲状腺機能低下などの水分過剰を反映する水代謝異常の指標となる検査です。		
K	カリウム	mmol/L	3.6 - 4.8 mmol/L
	腎機能を反映するほか、筋肉や神経の状態を知るための指標となる検査です。		
Cl	クロール	mmol/L	101 - 108 mmol/L
	ナトリウムや重炭酸など他の電解質濃度の異常を反映する検査です。		
Mg	マグネシウム	mg/dL	1.8 - 2.4 mg/dL
	腎不全などの腎疾患や、甲状腺機能に関わる内分泌疾患の指標となる検査です。		
Ca	カルシウム	mg/dL	8.8 - 10.1 mg/dL
	副甲状腺や甲状腺の内分泌疾患や骨代謝障害のほか、腎疾患を反映する検査です。		
IP	無機リン	mg/dL	2.7 - 4.6 mg/dL
	副甲状腺機能などの内分泌系の異常や、骨代謝異常を反映する指標です。		
Fe	鉄	μ g/dL	40 - 188 μ g/dL
	血液疾患や鉄代謝の異常、鉄喪失などの指標となる検査です。		
UIBC	不飽和鉄結合能	μ g/dL	男性：170 - 250 μ g/dL 女性：180 - 270 μ g/dL
	鉄の貯蔵・運搬に関わるタンパクであるトランスフェリンが、肝臓で産生される量や腎臓や腸管から喪失する量によって増減し、鉄が不足して起こる貧血の鑑別に用いられる検査です。		
亜鉛	亜鉛欠乏による味覚障害や皮膚病変、成長障害の診断に用いられる検査です。	μ g/dL	80 - 130 μ g/dL
グリコアルブミン	血液中に含まれるアルブミンと糖質とが中期にわたって反応することによって生成される物質であり、その検査を実施する日からさかのぼって過去約1~2週間の血糖コントロールを示す指標となる検査です。	%	11 - 16 %
CRP	C反応性タンパク	mg/dL	0.14 mg/dL 以下
	体内に急性炎症や組織障害があると血液中に増加するタンパクです。		
アンモニア	肝機能の栄養状態を調べることによって、肝機能異常の有無を把握する検査です。	μ g/dL	12 - 66 μ g/dL

検査種別	血糖・HbA1c	材料	血液
受付日			
受付番号	00010		
検査項目	検査の概要	単位	基準値
血漿血糖	食事で摂取された糖質が分解されてできたブドウ糖（グ	mg/dL	65 - 105 mg/dL
HbA1c (NGSP)	ヘモグロビンA1c、グリコヘモグロビン	%	4.9 - 6.0 % (NGSP)
	血液中に含まれるヘモグロビンと糖質とが長期にわたって反応することによって生成される物質であり、その検査を実施する日からさかのぼって過去約2か月の血糖コントロールを示す指標となる検査です。		